

池上先生の細やかな配慮と「何でも勉強だ」

藤 田 進

生涯現役でおられた池上先生がご逝去されて三年が経とうとしています。じねんじょ会発足以来いろいろと丁寧にご指導いただき本当にありがとうございました。これまでの四十年余の間には数々の思い出がありますが、特に分布図集等の拙い原稿を微にいり細にわたって細やかな校正をしていただき、意味の通る文章にしてもらったことは忘れることのできない思い出となっています。ありがとうございました。

また、私が安塚高校松之山分校へ赴任する時には、先生が以前に松之山地区で採集されたものを纏められた小冊子と、大井次郎著「日本植物誌」の奥付にある写真のコシジシモツケソウは松之山町で採集されたもので、原標本になっている。採集者は相沢剛一（タケイチ）と言う人で、関係者が居られたら採集地がどこかわかるだろうか。というようなメモをいただいたことがあります。

当時の松之山町は町制施行三十周年を前にしていろいろな準備がなされており、その1つに自然を主体にするパンフレットの作成が計画されていた。関係者に面会し、松之山町で採集されたコシジシモツケソウという植物が原標本になっていることから、町にとっても貴重な植物であることを説き、是非パンフレットに載せてほしいと依頼した。できあがったカラー刷りのパンフレットには小さいながらコシジシモツケソウが載っていたのを見た時に、池上先生の思いの1つを達することができた思いであった。

採集者である相沢剛一の関係者は意外にも当松之山分校で非常勤講師をされている相沢龍子先生であった。剛一氏は十日町市水梨（旧松之山町）出身で、広島高等師範を卒業されて教職に就かれ、各地で活躍された最後に京都の初

音小学校長で退職されたという。相沢龍子先生はお孫さんになる方で、十日町市小谷（旧松之山町）で在住されており、コシジシモツケソウが何処で採集されたかは分からないとのことであった。

それにしても、関係者があまりにも身近な所におられたのには驚かされた。と同時に池上先生から示唆されたコシジシモツケソウを仲立ちとして、町の方々と今でも続く人間関係を大切にしていきたいと思っています。

じねんじょ会での植物観察会では毎晩が勉強会である。教材は共同準備と個人持ち込みの両方が用意される。これがなかなかの難題で、一晩かけても解決できないことがよくある。このような時には朝食当番が朝寝をし、手抜き準備ということで周りの葉や笹の新芽を入れたみそ汁を作ったりした。池上先生はそのみそ汁をすすりながら平然と「何でも勉強だ」と言われたのを思い出します。この言葉はいろいろな場面にも使われており、採集時に「これは大きな葉だな、採るか」と言うと、「ああ、何でも勉強だ」という具合です。

人間は一生が勉強の連続であると言われますが、「何でも勉強だ」の言葉は年を重ねるにつれて味わい深い意味を持つように思われる。特に植物観察では1つの種でも各地で採集した標本を比較してみると、葉の大小をはじめ各所で微妙な差違が認められたり、同一種と思ったものが他の種であったりすることがある。途中で採ったからこのものはいらぬと言うのではなく、「何でも勉強だ」の心がけが如何に大事であるかが理解出来るようになってきた今日この頃です。

池上先生の思い出・・・焼山笹倉温泉道

田 所 清

私がじねんじょ会に加入させて頂いたのは30年くらい前の事。それ以来、永きに渡って指導を受けたこととなります。調査会の現場ばかりでなく、総会等での講演などで実に多くの知識を与えていただき、深く感謝をしている一人です。

しかし、ご一緒した調査会はある程度の回数になるとは思いますが、出来の悪い会員ゆえ、私も控えていたせいもあって、直接的な指導助言を頂いた機会はそれほど多くはありませんでした。ましてや、世間話的な会話を交わしたことは皆無に等しいものです。深い見識を持たれている威厳と近寄りやすい雰囲気を感じながら、少し離れたとこ

ろから先生を慕っていた一人でした。

いくつかの思い出の中から、1981年夏合宿に糸魚川市の焼山笹倉温泉道に調査に入ったときの思い出を綴ってみました。すでに20年以上昔のことになります。

焼山は7年前の1974年に噴火をして、暫くの間入山禁止になっていました。このときの調査は山が落ち着き、入山禁止の措置が解除されて初めてのものではないかと思われます。記録によると、調査日：1981年8月4日～10日。参加者：池上、尾崎、石沢、藤田、堀、小林（浩）、牧野、水沢、西山（邦）、白崎、関（省）、関（繁）、坪谷、山崎、田所の15名となっています。

笹倉温泉を出てからの登山道は、久しく人が入った形跡が無いので静かで荒れていない素晴らしいものでした。以前からの登山道は樹林帯の中に作られていて、かなりの道幅があるものでした。しかし、閉鎖中は強い光が差し込むわけではなく、藪のように荒れることはなく、林床は耐陰生の草本類が復元しつつあって、登山道は随分狭くなっていた記憶があります。実に気持ちの良い樹林帯の中の散策路という感じでした。

そんな快適な道を「じねんじょ流」の歩きで、右に左に道草を食いながらの前進です。はじめの頃は池上先生に付かず離れず、いくつかの植物についての説明を受けたりしていました。暫く進むと、ホザキノイチヨウランの群生に遭遇しました。私はこの植物の実物を見るのはこの時が最初で、かなり興奮していたようでした。この時も、池上先生から何かの話をしてもらったようなのですが内容を思い出せません。そしてもう一つ、強烈な印象を持っているのがオニクです。この異様な風貌の植物もこの時が初めてでした。どういういきさつかは忘れましたが、池上先生とオニクが私の心の中で強く結びついています。この時の調査会の主役がオニクであり、池上先生であったからでしょうか。

私は、次々に出てくる興味深い植物に魅せられながら、先へ先へと進み、いつしか池上先生とは離れてしまいました。先生はずっと後方で観察されていたようです。私以上に強い関心を持たれ緻密な観察をされていたに違いありません。

登山道の途中に坊々抱岩というところがあります。この付近でテントを張った記憶がありますが、それほど広い場所でもなく、登山道の上に設営したような気がします。テントを張る頃はそこそこ薄暗くなっていて、設営やら食事の支度やらで、メンバーの方々は誰が何を指示するというわけでもないのですが、阿吽の呼吸で忙しく動き回ります。その中で、坪谷氏がギョウジャニンニクをビンに入れて棒で突き潰していた姿が思い出されます。何かを混ぜていた気もしますが定かではありません。得体の知れない作品を「美味しい」といいながら関（省）先生などに食べさせていたシーンが蘇ってきます。

夜の食事を「勉強会」と称し、第三者に対してはいかにもというカムフラージュなのですが、内容は「じねんじょ流」の酒盛りです。すでに日はとっぷりと暮れ、「勉強会」の準備も整いました。しかし、池上先生の姿がありません。まだ、遥か下のほうで、ゆっくりと歩いておられたのでしょうか。どなたかがサポートに付いていたようなので、心配する状況ではなく、周りの方々は落ち着いたものでした。私はこのときに初めて知りましたが、これは「いつものこと」なのだそうです。池上先生と永年付き合っておら

れる方々ですから、先生の癖というか習慣を熟知されていたのでしょう。

しかし、かなりの時間を待てど音沙汰がありません。すでに、お腹も空いてきて、誰が云うでもなく仕方なしに「勉強会」は始まりました。主役がいない会はイマイチしっくりこないものです。私は酒を嗜まないから判りませんが、飲まれた方はグイグイというわけにはいかなかったと思います。

おそらく9時を回っていたのではないかと思います。ようやくサポートの人とテント場まで辿りつかれました。一般的な山の常識では暮れる前に行動を止めて、休息をすると思いますが、「やゝ遅くなった」と悪げも無くにこにことして話される先生の様子は常人とは思えません。まだ体力的には翌日とされていて、足腰が悪いという感じではありませんから、周りが見えなくなるまで植物を観察されておられたのでしょうか。それにしても、自分の居場所とかテント場との距離などという概念は持ち合わせておられない方のようなのです。

闇夜で見えなくなった位置から、小さな心許ないライトで自らの足元をかすかに照らし、ここまで来られたのでした。途中の登山道はそれなりに危険なところもあったのではないかと思います。はなから危険など無いと思われていたのか、平然とされているあたり俗人の私の常識では計り知れない面を持っておられる方だとつくづく感じたものです。自分とは「格」が違い過ぎます。全く異次元の存在のような面持ちで、以来そういう思いが自分の中から消えなかった気がします。一種のトラウマ状態というのでしょうか。

背に負う荷物も良く見れば異様で、大きなザックを背負われてはいますが、見るからにバランスが悪いものです。登山家から見れば呆れられることは間違いありません。しかし、そういうことには頓着しないというあたりも、一種の超越されている感じを受けないわけにはいきません。そして、先生の口から「疲れた」「嫌になった」などという言葉聞いた事がないのは、私だけではないのではないのでしょうか。

ことごとくに、並外れた面を持たれていた逸材であられたように思います。そして、そういう方に接することができ、指導を受けたことを幸せに感ずる次第です。

永い間、池上先生のその時々のご指導助言を賜り深く感謝しています。人の定めとはいえご逝去された事は本当に残念に思い哀悼の念にかられます。安らかにご永眠されることをお祈り申し上げます。（平成15年3月記）

むかご13巻（2004）から復刻